

家族の気持ち

～行動障害のある人の生活と 支援の実践～

東京都強度行動障害支援者養成研修

社会福祉法人 睦月会

関口 梨恵子

対象者の情報

対象者

年齢：30歳

性別：男性

愛の手帳：2度

支援区分：6

行動上の主な問題

出血を伴う激しい自傷行為、公共の場所でのスライディング等の危険行為、水道で水浴びする等の拘り、嘔吐行為等

家族の思い

30年間の家族の軌跡とこれからの支援者に望むこと

塚田 真喜子

幼少期

1歳半検診で言葉の遅れを指摘される

「自閉症」…

幼稚園入園

幼稚園を転園

様々な療育

小学校時代

転校

「自傷」の出現

梅ヶ丘病院入院

障害者施設への相談

中学校時代

自傷行為が激しくなり、学校に通えなくなる

自傷に対する考え方の違い…

手カバー

横浜発達クリニック受診

高校時代

自傷・奇声・パニック

癌で入院…

退院後に

手カバーが外れた

実習

実習開始

自傷が出現

小さい頃からの資料の大切さ

自傷

自傷を止めるべきか？

自傷をしたくてしてるわけではない

専門家がいない…

支援の統一が大切

これからの支援に望むこと

T氏の地域移行支援

行動障害のある人の地域移行を支える

社会福祉法人 睦月会
関口 梨恵子

はじめに 施設紹介

【名 称】

社会福祉法人睦月会 西東京市生活介護事業所くろーばー

【所在地】 東京都西東京市

【通所事業】

生活介護事業 45名

重症心身障害者事業 5名

療育型児童デイサービス事業 5名



* 2021年5月より事業所名を[Life Design あくと]に変更して、事業運営をしています。

生活介護事業40名 重症心身障害者通所事業5名

はじめに 施設紹介

【名 称】 社会福祉法人睦月会 ケアホーム西東京



* 2021年5月より事業所名を [Life Design らいみ]に変更しました。

7年前の様子と支援方法

課題となっていた行動

- ・ 睡眠の乱れ
- ・ 洋服を着ることへの強い執着
- ・ 水への強い拘り

7年前の様子と支援方法



6年前の様子と支援方法



6年前の様子と支援方法



ケアホーム入居に向けて

リセットのチャンス

ご自宅で生活する中で出ていたこだわり、不適切な行動はケアホームには持ち込まない。

新たな生活環境の日課を作り上げていく

ご家族、通所事業所、グループホーム、医療等が共通の認識をお互いに確認しながら、環境づくりを進めた。

ケアホーム西東京

氏のケアホーム西東京入居に向けて

日 時：9月16日 11:30

場 所：よこはま発達クリニック

参加者：お母様、先生、課長、ホーム長

○経緯

これまで氏は継続してよこはま発達クリニックの先生とTEACCHプログラムの相談として先生に定期的を受診していた。

ケアホームの入居が決まり、生活リズムが大きく変わることやよい機会と捉えたお母様と中山先生から入居前に定期通院に参加してもらいたいとの相談を受ける。

くろーばーから課長、ケアホーム西東京からホーム長が参加した。

○話した内容

①ケアホーム入居スタート時に新しいルールをはっきり伝えていくことで、ケアホーム西東京での生活が安定すると予測される。

ご家庭で発生していた不適切な行動はケアホームには持ち込まないという考えを持つ

②日課をどのように組むかが課題である

・お母様より家庭でスケジュールボードを取り入れてみたが効果はなかったとのこと
スケジュール化の方法は個人差がある。1日まとめてご本人に伝わらなくても、次の提示を伝えることで伝わる方もいる。

方法はたくさんあるので、氏にとって理解しやすい方法を続けていく。

③構造化された環境の提案として

食事はリビングの固定された場所を決める。

おやつは居室内のテーブルで食べる。

おやつ量は決まった量を提供する。

食事中におかずを落とすことについてはカゴを用意して、そこに入れるように伝える。

夕食時から就寝時間までのスケジュール化を居室内でわかるように準備する。就寝の合図として同じサインを提示して見える化、わかる化していく

先生からの具体的な重要なアドバイスとして20時～22時の間は支援員が5分程度1対1で関わる時間を設けていく。本人を忙しいという理由で放置することで自傷や不適切な行動が表出される可能性がある。

◎ 課長から

何かを持ってもらう、運んでもらうなど一緒に行動することが出来る。その度にご本人を褒めることを繰り返すことで適切な行動が習慣化する可能性がある。自傷行為にフォーカスするのではなく、自傷行為をしていない時間を指し「自傷しなくて偉いね」等、褒めていくことも関係性を作るうえで重要になる。

・居室前のトイレは入居スタート時、施設する等して排泄以外の目的（水遊び）で入室しないルールを作る。例えばタイマーが鳴ったらトイレに誘う等

○お母様が心配していること

・家庭では服をたくさん着てしまう。

⇒寝巻きと私服をはっきりわけてはどうか？

○取り決めた方針

・居室内の環境整備として、エアコンのコンセントとテレビ線にカバーを付ける

テレビ線を直接引き抜いて消していたことに対して、リモコンの操作を覚えて頂くことは可能と考えるので、教えていく。

・入居初日を日曜日にせず、月曜日の通所後から送迎バスでケアホーム西東京に入っていた。当方は金曜日の通所後ケアホームにお母様が迎えに来て帰宅。また日曜日の午後にはケアホーム西東京に戻ってきていただく。

ご本人が時間を持って余すことなく週末の今までの日課（移動支援・音楽活動等）をこなしていただくことで状態が安定する可能性が高い。

・ケアホーム西東京想定

通所から帰所⇒おやつカード提示⇒居室で準備したおやつを食べる⇒トイレカード提示

⇒トイレに行く⇒お風呂カード⇒お風呂でシャワーを浴びる⇒○○カード提示⇒

居室で○○を行う⇒タイマーが鳴る⇒リビングで夕食を食べる

上記のようにスケジュール化することで生活の安定を図る

・ケアホーム西東京入居までくろーばーで写真カードの準備を依頼する。

今後の予定

11月17日（月）氏入所予定

11月20日（木）先生14:30～16:30 ケアホーム西東京に見学とご本人16時以降の様子を確認する。

生じている問題、生じうるリスクを具体的に記載

- 構造化に対する整理を行う
- リスク、視覚的刺激的制限
- 走り出し、スライディング等での衝突リスク
- 拘り⇒許容⇒常態化【負のスパイラル】

① 背景の障害特性を推測 | 氷山モデル

- ① 言葉で伝えられた内容を理解することが苦手
- ② 暗黙の了解を理解することや、その場の文脈に合わせた行動を取ることが苦手
- ③ 人に伝える時に知っている言葉をうまく使えない
- ④ 興味・関心の幅が狭い
- ⑤ 「いつも」と違うこと・変化が苦手
- ⑥ 先の見通しをうまく持てない
- ⑦ 物事の始めと終わりがわかりにくい
- ⑧ 知的重度であるが、高い作業能力を持つ
- ⑨ 衝動性が高い

② 障害特性を「強み」の表現に変換

- ① 目で見えてわかることの理解は得意
- ② その場で求められていることや状況が明確になっていれば守ることが出来る
- ③ 本人の言葉を理解すれば、コミュニケーション可能
- ④ 好きな物に関しては強い関心を示す
- ⑤ 慣れ親しんだこと・もの・やり方を好む
- ⑥ 見通しの持てることは安心、自立的
- ⑦ 始めと終わりが分かりやすければ守れる
- ⑧ 作業レベルを下げれば、楽にクリアできる課題
- ⑨ 物の位置等を固定化（構造化）できれば衝動性を弱化

③ 他の場面から「強み」のリスト追加

- ① 言葉（単語）や歌をたくさん知っている
- ② 作業能力が高く、難しい作業にも取り組める
- ③ しりとりが出来る
- ④ かわいいもの、シンボリックな物が好き
- ⑤ 環境に順応性があり、新しい環境も苦にしない。逆に慣れ（飽き）が生じて定着が崩れる
- ⑥ 外に出ると（緊張からなのか？）落ち着いている場合が多い
- ⑦ 言葉の理解はあり、穏やかに繰り返し伝えることで理解を促すことが可能
- ⑧ 物をばら撒いてしまっても現状復帰が得意。綺麗好き
- ⑨ ドライブが好き、食べるのが好き

④ 「強み」を活かした新たな環境

- ・本人の視界に入る環境を整備し、環境の乱れを防止。視覚的な刺激を制限することで衝動性を抑制する
- ・暇な時間を減らす。作業、自立課題を導入
- ・自分の場所として認識できるようにシンボリックなマークで意味づけをする
- ・不適切な行動については、穏やかに繰り返し伝える
- ・追いかけてたり、強引に止めたりの衝動性を助長するような関わりを避ける
- ・環境は定着を目指さず、定期的に更新していく
- ・ケアホーム入居と同時に、トラブルが起こりそうなトイレ、風呂場の環境を制限する

時間	活動	サービス手順
15:45	乗車	バスに乗車し出発。武州マイクロ利用
16:00	到着	① 自室へ誘導し、荷物を片づけてもらう。カバンの置き場所、ノートの置き場所等所定の位置にしまってもらえるように注意する。※1
	余暇	② ブロックを提供する。現時点での持続は、10分程度。※2
16:20	入浴	③ 洗髪（※6）洗体はこする程度。仕上げを行う。洗体後、湯船に入る。湯船の中で体を激しく動かして遊ぶ傾向があり、湯船のお湯が一杯になっているとリビングまでお湯があふれ出すことがあるので注意する。
16:50	おやつ	④ 居室にて（ ）を提供する。食べ終わったゴミは、ゴミ箱に片づけるように指示する。予め、準備しておく。
17:10	散策	⑤ 周辺を散策。マップ参照。帰りにファミリーマートに立ち寄り、イートインスペースでヘルシアドリンクを飲む。※3
18:15	夕食	⑥ 夕食を提供。食堂で食事。嫌いなものを床に捨てようとする場合があるので注意する。餃子や唐揚げ等の一口大の食べ物は、手づかみで食べることがあるので箸等を使用するように促す。稀に麺類、スープ類、トマト味のものの時に嘔吐することがある。食後、歯磨き。※4 ⑦ 食後は、食器の片づけを促す。
18:40	余暇	⑧ ブロックを提供する。現時点での持続は、10分程度でそれ以上を要求すると自傷する可能性。
20:00		⑨ 本人の要求があれば、散歩を実施。※5 ⑩ 睡眠誘導支援へ

【注意事項】

- ※1 視覚的なイレギュラーがあると物投げ→情緒高揚→自傷の流れが出来るやすいので、事前の環境整備が必要。
- ※2 ブロック以外の自立課題もあるが、ボールペンの組立等の作業的な活動については、情緒の乱れを誘導してしまう可能性あり。
- ※3 散策のコースは確定していないが、確定したコースがある方がベター
- ※4 嘔吐について、処理のマニュアルにそって処理する。ケアホーム用のマニュアルを整備する
- ※5 今後、対応できなくなる可能性が高いので、活動的には室内で一人で出来るものが良い。現時点ではそのような活動がない。家ではテレビを見て過ごす時間とのことで、興味が合致すれば可能性あり。
- ※洗髪時は「1,2,3」という感じで数を数える。

平成 26 年 10 月 23 日 更新

生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 様々な物を投げてしまう
- ベランダから投げた際に 1 階まで投げ落としてしまう危険がある
- 物を散乱させてしまうことによる行動がエスカレートし、自傷等の問題行動に発展する可能性がある
- 投げた物が他者にぶつかり怪我をする可能性がある

①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

- ① 暗黙の了解を理解することや、その場の文脈に合わせた行動をとることが苦手
- ② 人に伝える時に知っている言葉をうまく使えない
- ③ 状況や文脈をうまく読み取れず、一方的な関わり方になりやすい
- ④ 先の見通しが上手く持てない
- ⑤ 物事の「始まり」と「終わり」がわかりにくい
- ⑥ 能力の発達がアンバランス
- ⑦ 衝動性が強い (視覚的)

②障害特性を「強み」の表現に変換

- ① その場面で求められていることや状況が明確になっていけば守ることが出来る
- ② 言葉以外の方法であれば伝えることが出来る
- ③ 関わり方のルールが明確になっていけば守れる
- ④ 見通しの持てることに関しては自立的に取り組む
- ⑤ 「始まり」と「終わり」がわかっていると守れる
- ⑥ 得意なことに関しては高い能力を持っている
- ⑦ 事前の環境の工夫で衝動性を回避できる

③他の場面から「強み」のリスト追加

- ① 言葉 (単語) や歌をたくさん知っている
- ② 作業能力が高く、難しい作業にも取り組める
- ③ しりとりが出来る
- ④ かわいいもの、シンボリックな物が好き
- ⑤ 環境に順応性があり、新しい環境も苦にしない。逆に慣れ (飽き) が生じて定着が崩れる
- ⑥ 外に出ると (緊張からなのか?) 落ち着いている場合が多い
- ⑦ 言葉の理解はあり、穏やかに繰り返し伝えることで理解を促すことが可能
- ⑧ 物をばら撒いてしまっても現状復帰が得意。綺麗好き
- ⑨ ドライブが好き、食べることが好き

④「強み」を活かした新たな環境

- ・本人の視界に入る環境を整備し、環境の乱れによる衝動性を抑制する
- ・暇な時間を減らす。作業、自立課題を導入
- ・リスクの高いベランダ等に視覚的にわかりやすい物投げを禁止する表示をする
- ・落ち着いて生活出来るスペースを整備する
- ・自分の場所として認識できるようにシンボリックなマークで意味づけをする
- ・不適切な行動については、穏やかに繰り返し伝達する
- ・追いかけたり、強引に止めたりする衝動性を助長するような関わりを避ける
- ・環境は定着を指さず、定期的に更新していく

時間	活動	サービス手順
9:45	散歩	【スケジュール①】 散歩 登所したら、散歩の予定を口頭で伝達する。伝達する際は、着席して話を聴ける状況を作ってから伝達。散歩までの時間をタイマーで提示して待ってもらおう。
作業後	自販	【スケジュール②】 自動販売機でジュースを買う 作業開始時に作業後の見通しをつけてもらう為、「作業が終わったらジュースを買いに行きます」等の声掛けをする。作業の量で終わりを提示すると、理解しやすいので、カゴ一杯分等、視覚的に分かりやすい説明をして作業を完了させる。
給食前	給食	【スケジュール③】 給食 ジュースを買って 4 階に戻り、所定の位置に着席してもらう。着席したら給食についての情報を提供。給食は 11:45 から若干の待ち時間が生じるので、自立課題等で空白時間をカットする。タイマー等で 11:45 を知らせる。
給食後	車	【スケジュール④】 キャブ 給食後に次の予定を知らせる。日課としては、歯磨きをしてから自立課題に取り組む。自立課題の終了は、タイマーで知らせる。
緊急時	緊急	何らかの要求以外の大声、特に「アー」「ウー」「オー」等の大声に関しては、自傷行為に繋がる可能性があり、配慮が必要。そのような場合は、隣に座り、職員の名札や靴、ベンチの位置等に拘りをスライドさせるようにすると良い。激しい自傷に至った場合は、両腕を押さえ、落ち着くのを待つ。声掛けは有効でないため控える。

【連絡事項】

大声を出す行動の要因は多岐にわたるが、要求や回避に関する大声は、見通しや要求を叶える支援、行動の停止等で収束する場合が多い。
それと比較して、それ以外の「アー」「ウー」「オー」等の更に大きな声出しについては、生理的な要因である可能性が高く、考えられる要因として「暑い」「寒い」「かゆい」「どこかが痛い」「おしりに便が付着している」等。シャワー浴等で改善されることも多い。











成 26年 11月 18日 更新

時間	活動	サービス手順
9:30	登所 着替 確認 散歩	① 作業室へ誘導。* 1 ジーンズシャツか厚手の上着を脱ぎ、支援室ロッカーへ預かる。→カバンをロッカーへ入れて、連絡ノート提出。→髭剃り。スケジュールの確認。 ② 散歩（レク出発までに帰所。）
10:00		③ レク活動、散歩。
11:30	レク 休憩	④ 買い物。ファミリーマート（ヘルシアドリンク）。 →買い物後、個別スペースへ誘導。買い物したジュースを飲む。
11:45		⑤ 朝食対応。 （ 氏、 氏、 氏 ）→昼食後、歯磨き
12:00	昼食	→作業室、個別スペースへ誘導。 →回収作業まで休憩。
13:00		⑥ 回収作業出発。
14:30	作業 散歩	帰所 ⑦ 散歩から帰所後、お茶。
15:20	帰宅 準備	⑧ 下着の汚れをチェック。汚れている場合は着替える。 →朝の登所後に脱いだ上着を着る。ロッカーからカバン。
15:35	終了	送迎バスに乗車。

【注意事項】

- 【1】 登所後に上着を脱ぐ事について。冬場は厚手のコートやパーカーを着用して登所されますが、脱ぐことが難しく、その場合に体温の上昇から発汗。身体の不快感から情緒が乱れ、自傷に繋がるケースが多く見られました。
→**上着が脱げない場合は、着替え一式を本人に提示、全部着替えて頂く。**この場合、拒否は見られていません。
→作業室、個別スペースで髭剃り。
- 【2】 散歩時の注意点として、夏場など気温が高い時など、発汗から身体の不快感に繋がり情緒が乱れるケースが多く見られます。

→夏場など気温が高い時は、濡れタオルを携帯。時々首もとを冷やしながら、散歩します。
情緒が乱れると突然の走り出し、などが見られます。
→散歩から帰所後、排便が多く見られます。または昼食後。**排便後はウエットティッシュでのしっかりと拭き取り**をお願いします。

○排便、排尿後の手洗い

手カバーを外す→袖をまくる→手洗い→手カバー装着

【3】 散歩時の注意点は【2】参照。

【4】 散歩から帰所後の買い物。

本人に事務所へ財布を取りに行ってください。ファミリーマートで**ヘルシアドリンク**を購入。グミがない場合はこの時に購入。

→購入後、個別スペースで飲んで頂く。

以前は1階の喫茶室の販売機でカルピスソーダを購入していましたが、体重増加のため、現在はヘルシアに変更。

【5】 朝食。11:45分に佐々木氏と食堂に昼食を取りに行きます。食堂で食事。嫌いなものを床に捨てようとする場合があります。**小皿に置くよう声掛け**をお願いします。

→昼食後に歯磨き。歯磨き後に作業室個別スペースへ誘導。

* オープンスペースなどで物投げ(片付け)が始まった場合。

→作業室の室温を低めにエアコン設定。お尻が汚れていないかチェック。

【6】 回収作業。やりがいをもち積極的に取り組まれています。**しっかりと寝ることに重点を置きながら、過度のコミュニケーションは混乱を招くように思われます。**

* 自傷行為の対応について

「アー」や「ウー」などの低い唸り声、言葉になっていない**大声**は自傷行為に繋がりがやすい
その場合は、隣に座って様子を見る。激しい自傷行為の場合は失明の可能性もあるので、腕を抑えて静止します。

* 大声、眉間に指を突きつける。

要求が通らない時、スケジュールを回避したい時に多く見られます。大声には「大きな声は出しません。眉間に指で突く、または真似の場合は「顔は叩きません」。で統一。低いトーンの声で極力残念な表情を作り対応。

【様】

場面对応表⑤【その他】

更新日① 更新日③

更新日② 更新日④

H28.1.25作成
作成者:

食事場面 食器洗い	<ul style="list-style-type: none"> ・予め事前に食事の準備を済ました後、声掛けを行う。予定時間より早く食事関連の声かけを行うことにより、待たなくなり自傷に繋がる恐れがあるため時間厳守の対応をとる。 ・誘導の声掛けを行うときは、氏が居室で過ごしているときに行う。 ・食事をこぼしてしまったときは職員より声掛けを行い「流しに捨てます」「ゴミ箱に捨てます」と伝え、その都度捨ててもらふ。 ・食事を終えたらトレーをシンクに運んでもらふ。使用した茶碗・コップをスポンジを使用し洗ってもらふ。洗う時間を10秒数える。泡を流す時間を10秒数える。洗った食器は水切りカゴに入れてもらふ。洗い終わったら「洗ってくれてありがとうございます」と伝え居室に誘導する。本人が居室に戻った後に支援員が食器を洗いなおす。
Cユニット内対応	<ul style="list-style-type: none"> ・氏の対応をする上で、まずは強度行動障害がある方への支援であることを認識してください。 ・刺激の少ない環境を作り、統一した対応が出来るチームで、生活全般において支援が必要な方への支援方法です。支援者の支援が統一されないことで、小さなボタンの掛け違いが止められない強い自衛行為となり表出します。日々の統一した対応を提供することが安定した生活を送っていただく上で最低限の条件となります。 ○氏の対応は基本的にCユニット夜勤者が対応。※20時の散歩のみ運番1が対応する。 ○氏の行動においては職員(主導)がキーパーソンとなり、氏(受身)に今何をやる時間か伝え、タイムスケジュール通りの生活が送れるよう支援していく。 ○氏がCユニット内で過ごしている場合、基本は居室内で過ごしてもらふ。入浴・排泄・食事・外出時などのみ職員の誘導のもと居室外へでる。それ以外のケースで居室から出てきた場合は夜勤職員が氏に声掛けを行い居室へ戻っていただくよう支援を行う。 ○氏への声掛け時に注意する点 <ol style="list-style-type: none"> 1. 支援者は表情を変えない。無表情で声をかける。(言葉の内容ではなく、表情で感じ取っている。) 2. 声掛けはトーンは低く、一定の速度と大きさで行う。(淡々と話す。相手の早口に合わせない。) 例: 居室から出てきたときの声掛けは「さんお部屋に戻ります。」と淡々と伝える。氏が職員の声掛けに反応せず居室からリビングに向かう場合には、職員が氏の体に触れ居室へ誘導する。 ○排泄間隔が1時間半も開かず排泄要求がある場合は、「トイレ出ません。お部屋に戻ります」と伝え塚田氏に居室で過ごしてもらふ。
腕カバーの直し方	<ul style="list-style-type: none"> ・居室で椅子にすわってもらい、腕に手カバーをしたままガムテープを巻く。
身体チェック	<ul style="list-style-type: none"> ・夕方の入浴脱衣時・朝の起床支援時に夜勤者が身体チェックを行い、傷や痣がないか確認を行う。傷や痣が確認された場合は必ず記録に残し管理職へ報告を行う。
パニック時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○氏はパニック状態になると大声を挙げ、自身の拳で機械的に顔面を殴打することがあり、大抵我に繋がりに兼ねません。氏がパニックになった場合は以下の対応をとって下さい。 1. 氏が椅子に座った状態になって頂き、職員は前から手を後ろに回ししっかり抱えて下さい。※直接利用者さんの手首や肘は抑えないで下さい。脱臼や骨折の原因に繋がります。 2. 顔を上げた状態だと、氏を刺激する恐れがあるため、落ち着いていただく為に職員は顔を下げた対応して下さい。 3. 氏が抑制したら、管理職に報告し指示を仰いで下さい。 4. パニック時にも職員から話す際には、静かな低いトーンで話しかけて下さい。 ※大きな声・威圧的な声掛けはかえって、氏を刺激する結果になります。職員は常に冷静な声掛けを心がけて下さい。 注意事項 ○氏がパニックになった場合、職員は必ず2名体制のもと対応して下さい。1名が氏対応を行い、もう1名が全体の見守りと管理職への連絡をとるようにして下さい。 現場に職員が1名しかいない状況でパニックが起こった場合は、他ユニットとの連携をとって対応します。

Cユニット 夕方の流れ

氏あり見守り 氏なし見守り

時間	C夜勤男性	遅男1	遅女3	氏支援 共通認識事項	備考
16:00	夕礼		【月水の動き】 入浴利用者の誘導 氏の清拭(17:30~18:00) 夕食弁当を各ユニットカゴに仕分けて届ける	<ul style="list-style-type: none"> ○声掛け ・表情を変えず(ニコニコしない) ・低い声で淡々と話す(大声・早口にならない) ・居室から出たら、氏に期待する行動を声掛けて伝える。また指差しをして行動を示すことも有効。 例: 利「トイレ行くの」支「トイレ行きません。お部屋に戻ります。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問看護利用 ・氏 排便なし3日目にシカルボン処置。 ・氏 排便なし7日目にシカルボン処置。 ※夕礼で申し送り
16:20	氏受け入れ ・利用者の検閲、水分補給、排泄誘導 ・氏の対応と全体の見守り 居室より出てくる際は、その都度居室へ誘導		【火木の動き】 女性入浴 ①氏②氏 ③氏④氏⑤氏 ⑥氏 (遅女3がCユニットにて行)	<ul style="list-style-type: none"> ○排泄 トイレ誘導は2時間間隔で支援員から声をかけて誘導。本人よりトイレの要求がある場合は、「トイレ行きません。お部屋に戻ります」と支援。居室に誘導する。 	
17:00	入浴支援 身体チェック(特に腕内側や脇周辺。傷・痣等があった場合、記録に残し管理職へ報告)	【火木】 見守り 向	【月水】見守り 氏の入浴	<ul style="list-style-type: none"> ○入浴 ①氏に入浴の声掛けを行い、白いカゴを居室より持ってきていただく。 ②支援室においてあるバジャマセット一式を白いカゴに入れ脱衣所へ誘導。 ③脱いだ衣類は白いカゴに入れるよう支援。氏が入浴している間に職員で氏の脱いだ衣類を洗濯乾燥にかける。 ④入浴後、白いカゴを氏に居室へ戻していただき、居室で過ごす声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・氏のバジャマはCユニット支援室の塚田氏の衣類ケース
17:30	服薬、時間指定薬の服薬 服薬後、A夜男に電話報告 ※服薬時に補食の飲み物1本提供				
18:10	見守り				
18:30	氏 嗜好品(グミ)提供		氏 入浴(Cユニット浴室)	<ul style="list-style-type: none"> ○おやつ提供 グミはCユニット支援室の入って右の棚上段に専用のケースに入れられている。その中から6粒程度取り出し、共用皿に乗せ居室で提供する。 	
18:40	見守り		食事支援、服薬 ①氏 ②氏、氏 ③氏 ④氏食事準備	<ul style="list-style-type: none"> 食べ終わった後、居室でトレーを受け取る ○食事 床に食材を落した時は、声をかけ拾ってゴミ箱に捨ててもらふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夕食準備(配膳準備の写真参照)
19:00	氏 夕食支援、服薬、食器洗い、歯磨き ※食器を片付け居室へ戻った後、声掛けし歯磨き支援実施。			<ul style="list-style-type: none"> ○食器洗い ①食器をシンクへ運ぶ。 ②洗剤をつけたスポンジを渡す。 ③皿・スプーン・コップを洗う。10数えながら行う。 ④皿等すすぐ。すすぎ残してもよい ⑤食器洗いをしたことを要める。 「さん、ありがとうございます。」 ⑥居室に誘導する。 ※支援員が洗い直しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・氏の服薬は食事を一口残して服薬し、服薬後一口食べながら口腔内確認。 ・氏は時折声掛けをしながら、手が止まらなく食事できるよう支援する。19:30までに氏食事終了するよう支援する。
19:30	見守り 夕食後薬が終了したことをA夜動に電話報告		氏、氏 歯磨き	<ul style="list-style-type: none"> ○錠剤 拒否があった場合は、手を止めて声をかけ正面を向きなおしてもらってから再開する。 ○歯磨き 本人に磨いてもらふ。仕上げは職員で行う。拒否があった場合は、錠剤と同様声をかけて顔を向きなおしてもらふ。 	
19:45	氏 錠剤				